

平成30年度 第1回機関保証制度検証委員会 議事要旨

1. 日 時 平成30年11月19日(月) 15:00~17:00

2. 場 所 アルカディア市ヶ谷 7階 琴平

3. 議 事

- (1) 委員長選出及び委員長代理の指名
- (2) 奨学金制度に関する最近の施策について(報告)
- (3) 返還金の回収状況等及び機関保証制度の運用状況について
- (4) 日本国際教育支援協会における機関保証事業について
- (5) 平成30年度機関保証制度検証委員会テーマ(案)について
- (6) 民間シンクタンクによる今年度のリスク分析(概要)について
- (7) その他

4. 出席者

◎委員

遠藤委員、小田中委員、宗野委員、丹野委員、林委員(委員長)、松橋委員、大森委員、大谷委員

○(独)日本学生支援機構(以下、「機構」)

遠藤理事長、大木理事長代理、前畑奨学事業戦略部長、谷江債権管理部長、大西機関保証業務課長

■(公財)日本国際教育支援協会(以下、「協会」)

奥村機関保証センター長

●分析業務受託業者

PwCあらた有限責任監査法人

5. 議事概要

・議事(1) 委員長選出及び委員長代理の指名

機関保証制度検証委員会設置要項第5条第1項に基づき、委員の互選により林委員が委員長に選出された。

機関保証制度検証委員会設置要項第5条第3項に基づき、林委員長により丹野委員が委員長代理に指名された。

・議事（２）奨学金制度に関する最近の施策について（報告）

機構より、資料１に基づき説明が行われた。

委員との質疑応答は次のとおり。

【スカラシップ・アドバイザーについて】

◎ 委員

スカラシップ・アドバイザーの派遣について、地域的に一部ばらつきがあるとの説明があったが、具体的にはどのようなことか。また、学校等からの要請に基づいて派遣するのか。

○ 機構

全国にスカラシップ・アドバイザーを派遣できるよう、スカラシップ・アドバイザーの少ない地域において、重点的に養成プログラムを実施し、地域的な偏在を改善した。また、学校等からの要請に基づき派遣している。

◎ 委員

スカラシップ・アドバイザーの認定主体はどこか。

○ 機構

スカラシップ・アドバイザーの認定主体は機構である。日本FP協会又は金融財政事情研究会におけるファイナンシャル・プランナーの有資格者（２級相当以上）を対象とした養成プログラムを開講し、その修了者（確認テストの合格者）をスカラシップ・アドバイザーとして認定している。

【奨学金事業採用状況について】

◎ 委員

有利子（第二種）奨学金から無利子（第一種）奨学金への流れの加速化については、借り手側の事情によるものなのか、あるいは機構が推進しているのか。

○ 機構

どちらかといえば後者に当たる。奨学金の事業規模は国の予算編成の方針に関わることであり、無利子（第一種）奨学金の規模拡充は国策としての流れと言える。

・議事（３）返還金の回収状況等及び機関保証制度の運用状況について

機構より、資料２、資料３及び資料４に基づき説明が行われた。

委員との質疑応答は次のとおり。

【機関保証選択率等について】

◎ 委員

機関保証制度の選択率はどのくらいか。

○ 機構

平成30年9月末時点で47.5%である。

◎ 委員

機関保証選択率は平成26年度～同28年度までの間、前年度比で低下していたものの、近年は反転している。その原因はどのようなものか。また、機関保証制度を選択した理由についてアンケート調査等は実施しているか。

○ 機構

機関保証選択率が前年度比で上昇に転じたことについては、機関保証制度への加入を必須とする所得連動返還方式導入の影響が一因であると考えられる。ただ、アンケート調査等による明確な原因の特定には至っていない。

◎ 委員

スカラシップ・アドバイザーは、人的保証と機関保証の違い等を説明しているのだろうか。

○ 機構

保証制度についても説明を行っている。説明時間が短いケース（約30分）においても、要領を得た説明がなされている。

【代位弁済状況について】

◎ 委員

代位弁済件数が近年増加していることについては、原因をどのように把握しているか。

○ 機構

母数にあたる返還中債権数の増加に伴い、代位弁済件数が増加していると考えている。

◎ 委員

資料4「5 代位弁済状況」では、代位弁済件数のみが掲載されている。母数にあたる返還中債権の表を並べて示すことによって、増加の要因が分かりやすくなるのではないか。

◎ 委員

本委員会において代位弁済の発生状況を分析するうえでは、第1回委員会において行う実績報告の段階から母数との対応が示されているとよい。

・ 議事（4）日本国際教育支援協会における機関保証事業について

協会より、資料5及び机上資料1に基づき説明が行われた。

・議事（５）平成３０年度機関保証制度検証委員会テーマ（案）について

機構より、資料６に基づき説明が行われ、委員より原案のとおり承認された。

なお、委員との質疑応答は次のとおり。

◎ 委員

平成３０年度においては特段の新規事項はなく、所得連動返還方式の影響等を引き続き検証していくとの理解でよいか。

○ 機構

ご指摘のとおりである。

・議事（６）民間シンクタンクによる今年度のリスク分析（概要）について

PwCあらた有限責任監査法人より、机上資料２に基づき分析方針の説明が行われた。

・議事（７）その他

【所得連動返還方式の選択状況について】

◎ 委員

民間シンクタンクによる分析について、直近の実績を反映させるとの説明があった。この点に関して、所得連動返還方式の状況を伺いたい。

○ 機構

所得連動返還方式の選択率は、平成３０年９月末時点で１５．６％である。返還状況について、返還２年目の者が出てきた。とはいえ、多くは満期者ではなく退学等の異動による貸与終了者であるため、十分な実績データが蓄積されているとはいえない状況である。返還状況の分析については、今しばらく状況を注視する必要がある。

◎ 委員

所得連動返還方式の選択率について、もう少し高くてもよいのではないかと直感的には思う。貸与中であれば返還方式を随時変更可能であるとのことだが、そもそも申込時において制度の内容をよく理解できていないのではないか。制度の周知についてどのように行っているのだろうか。

○ 機構

機構としても、より多くの奨学生に所得連動返還方式を選択してもらいたいと考えている。返還方式の選択に関するアンケート調査を実施したところ、所得連動返還方式を選択しない理由として、所得に左右されず一定の月額で返還したい旨の回答が見られた。とはいえ、所

得連動返還方式には、所得が少ない場合には割賦金が抑制されるため返還者の負担が軽減されるというメリットがある。また、機関保証の加入が必須条件となっていることから、人的保証制度に伴う問題点も回避できる。学生が返還方式を選択する際の動機を更に探りつつ、今後もスカラシップ・アドバイザー等を活用して、所得連動返還方式のメリットや保証制度について充実した説明を行っていきたいと考えている。機構からの説明に不十分な点があるかどうか、分析業務受託業者にも意見を伺いたい。

◎ 委員

より丹念に説明するため、所得連動返還方式のチラシ等の資料を充実させてはどうか。

○ 機構

実際に所得連動返還方式のチラシを作成して配布した。マイナンバーの提出が必須である点がネガティブな影響を及ぼすのではないかと懸念していたが、アンケート結果によると、それほど障壁にはなっていなかった。まだ制度が開始されて間もないので、引き続き状況を注視していきたい。

◎ 委員

学生が最も真剣に返還方式を検討するのは、奨学金の申込時ではないか。一方で、奨学金の貸与中は返還方式を随時変更できるのであるから、スカラシップ・アドバイザー等を活用して制度の周知に引き続き取り組むことが重要であると考えます。

◎ 委員

奨学金の貸与中は返還方式を随時変更できるということを奨学生に周知する必要があるのではないか。奨学金申込時には、卒業後の収入状況について楽観視する奨学生が多いと思われるが、卒業を控えた時期に至ると、定額での返還が難しいと感じるケースもあるのではないか。申込時と貸与終了前の両方のタイミングで周知することが有効と考える。また、アンケート調査をインターネットによる奨学金申込時(スカラネット入力時)に実施してはどうか。保証制度の選択についても、選択理由についての問いを加え、学生の理解度等を探り、不十分な点があれば、スカラシップ・アドバイザー等により説明を行うなど、原因を把握した上で対策を立てる必要があるのではないか。

◎ 委員

奨学金申込手続においてアンケートを実施する際には、一方の選択肢に誘導することがないよう慎重に検討する必要があると思われる。

◎ 委員

アンケート調査については、例えば機関保証を選択する理由として、「将来に返還方式を選択

し得る余地があるため」等の選択肢を加えることにより、誘導的にならず、機関保証、人的保証両方の理由を確認することができるのではないか。

◎ 委員

保証制度の選択に当たっては、判断材料を適切に提供することが重要である。

【長期財政収支シミュレーションについて】

◎ 委員

長期財政収支シミュレーションについて、少子化の動向や教育資金無償化といった政策に係る見通しを加味してもよいのではないか。

◎ 委員

ご指摘の点は重要な視点であるが、機関保証制度の妥当性を検証するという本委員会の性格上、あまりシミュレーションを先行させないのが適当と考える。この点は長期的なテーマとして認識しておきたいと思う。

(以上)